

「税についての作文」 入選作品



■愛媛県知事賞

「この国の未来のために」

宇和島南中学校3年 藤原みちる

「税金が何に使われているか、知っていますか。」

先日、租税教室で講師の先生は、私達にこう質問されました。しかし、私はとっさに答えることができませんでした。税金は国のために必要なもの、そんな漠然とした考えしか、持っていなかったからです。また、私達が普段払っているものといえば、消費税くらいなので、税に対して、どこか疎遠なイメージを持っていたからかもしれません。

しかし、講師の先生のお話を聞くうちに、税と私達の生活は深い関わりを持っていることが分かりました。例えば、私達が受けている義務教育。教科書代や学校の運営費など、税金で負担されている教育費は、約1,000万円にも上ります。一家庭でこの額を賄うのは、とても難しいことでしょう。もし仮に、税金で教育費が全く負担されていなければ、満足に教育を受けられなくなる子ども達が出てくるかもしれません。教科書の裏に書かれている言葉の意味を、改めて深く考えさせられます。教科書をより一層、大切に扱い、勉学に励もうという思いを強くしました。

また、税金は道路の整備や運動公園の建設、学校の耐震工事や、私達の平和で安全な暮らしを守るための医療、警察、消防、ごみの処理などの公共サービスに活用されています。税金が負担してくれているおかげで、私達は様々な面で豊かな生活を送ることができているのです。

税金の大切さを痛感したのは、7月7日、西日本を襲った豪雨災害です。私達の住む愛媛県も甚大な被害を受け、多くの尊い命が失われました。土砂崩れや川の氾濫など、自然の脅威に家屋や道路が飲み込まれてしまいました。私の家の前の道路もみるみるうちに膝の高さくらいまで冠水し、はす向かいの家は浸水してしまいました。

被災者の支援や町の復興には莫大な費用がかかりますが、ここで大きな力を発揮するのが税金です。税金が被災して困っている方々のために有効に使われ、一日も早く元の生活を取り戻してほしいと心から願います。

す。

私の周りの人々の中には、消費税が上がることには不満や否定的な考えを持つ人が少なからずいます。しかし、私達が普段利用している公共サービスや施設は、巨額の税金によって賄われています。もし国民が税金を支払うのを拒否してしまつたら、私達の暮らしはたちゆかなくなつてしまいます。税金を拒否することは同時に、私達の生活における平和や安全をも拒否しているのではないかと、私は考えます。

税金を納めるということは、私達が平和で安全な生活を営み、優秀な人材を育て、この国を豊かに発展させていくために、また国民一人一人が国を支えていくために、私達に課せられた義務なのだと思います。

■宇和島市長賞 「私たちを支える税金」

宇和島南中学校3年 出水 緋子

なぜ、税金を払わなければいけないのか。税金は何の為に使われているのか。税金についての正しい知識を身に付けるまで、私には、税金に対して何となく良いイメージがありませんでした。不正に税金を使われ

ているニュースが多く、自分にとって払うだけのもので、何も返ってこないと思っていました。しかし今では、税金は無くしてはならないものだと思います。私がそう思うようになったのは、税について知る機会があったからです。

小学校高学年の頃と、ついこの間の租税教室で多くのことを学びました。公共施設が有料となり、崩壊したままの道路がある荒れ果てた町の様子を映像で見て、衝撃を受けました。税金について知るまでは、道路の整備や、公共施設の設定などの費用が、どこから出ているのか考えたこともありませんでした。税金の種類の多さや仕組みも知り、国民が平等に税金を払うことによって、より豊かな社会ができるのだと理解しました。税金があるから、しっかりと保たれた環境で健康的に生活できるのです。学校もそうです。私は学校に通い、学ぶことができる日常生活を過ごしていますが、教育費がかかっていることを忘れてはいけません。与えられた教科書や、勉強して知識を増やせる日々を大切にしていきたいと思えます。学校に限らず、消防署や警察署を頼ること、医療や介護を受けることができるのも、税金のおかげです。私たちは、今、気軽に、これらの施設を利用していますが、

税金がどのように使われ、役立っているのかを知ると、不自由無く生活できる環境をありがたいと思うようになりました。

私の住んでいる地域は、集中豪雨によって大きな被害を受けました。大雨による浸水や土砂崩れの被害によって、私たちの生活は安全な生活からかけ離れたものとなりました。私の住んでいる地区は、断水によって水が使えなくなり、大変な生活を送っています。生きるために必要な飲料水を確保できない状況は、これからの生活を不安にさせました。しかし、自衛隊のおかげで飲料水や食料を確保することができ、また、土砂崩れによって通れなくなった道路は、早い内に整備されました。本当に感謝することはあります。日頃から支払ってきた税金は、いざという時に自分たちの助けになっていることを実感することができました。大きく支えられていることをありがたく思います。

このように税金は、安全で不自由無く暮らすために必要なものであり、日々の生活を支えています。私のように、国民一人一人が税への関心を持つことで納税に対する考え方は変わってくると思います。私は、税を学ぶことで増税もやむをえないことだと思ふようになりました。改めて

税金によって支えられている生活に感謝し、税金を納める義務を自覚して、日々を過ごしていきたいと思ふます。

■宇和島地区租税教育推進協議会長賞「ふるさとと税」

城北中学校3年 西村 風人

日本には税金が五十種類以上あるそうです。私たちが生活していく中で、納税とはとても身近なものだと感じます。物を買うとき払う消費税や、県民や市民が払う税、自動車に関する税などいろいろな場面で私たちは、税金を納めています。私たちが学校で使う教科書は税金による無償の支給です。他にもゴミの回収、道路の整備にかかる費用も税金によって負担されています。税金は、とても大切で、私たちに欠かせないものだと分かります。

その中で僕が最も注目したのがふるさと宇和島に納める地方税と、それを豊かなまちづくりに使おうという用途です。全国的に見れば地方の一都市に過ぎない宇和島ですが、宇和島には、全国に誇れる素晴らしい食べ物、祭り、場所がたくさんあります。自然の恵みである特産品、伝

統ある宇和島牛鬼まつり、江戸時代から残る貴重な宇和島城。このような宇和島の名物を大切に保存し、より発展させるためにも税金が使われています。それを聞いた時、僕は驚きました。なぜなら、祭りと税、文化的なものとは税という組み合わせが頭になかったからです。宇和島市に住む人々は、宇和島市に愛着がある人が多いと思います。僕もその一人です。だから、宇和島市に納める税金が宇和島市のために使われることはとても嬉しいし、自分たちの税金が役に立っていることを実感できると思います。

また、今、宇和島には、多くの観光客が県内外、国外からも訪れています。税金を使って道路や港をつくることも豊かなまちづくりにつながっていると思います。宇和島の魅力を知っていただき、足を運んでもらうための手段に税金を使い、宇和島市のことをもっともっと知ってほしいと思います。

しかし現在、日本は少子高齢化という大きな問題に直面しています。働く人が少なくなると、高齢者が多くなると、集める税金も少なくなり、財政はどんどん悪化していくことになるかもしれません。そうなること、無駄を減らして少ない税金を効率よく使っていく事が大切になりま

す。そうなった時真っ先に省かれるのは、祭りや文化財の保護のために使っていた税金になると僕は思います。しかし、そうやってほしくありません。僕は「ふるさと納税」など地域外から納められる税金が大きな役割を果たすと思います。少子高齢化を乗りこえて豊かな町をつくるために税金はとても重要な役割を担うのではないかと僕は考えています。

私たちが暮らす美しい宇和島市をより豊かにしていくための税金。住んでいる人が長く住み続けたいと思えるような市をつくるため、正しい税金の使い方をしているか、僕たち市民も見直していくことが大切だと思います。僕も納税の義務を負う一人として、税金を納めることや、使役道、ふるさととの関係をより深く考えていきたいと思っています。



租税教室の様子